

～2022年「事前の備えや住民避難を後押し」する取り組みを推進～

防災啓発 10大ニュース 2021

2021年、新型コロナウイルス感染症予防のため、水防訓練や防災啓発イベントなどが中止となる中、7月豪雨では熱海で大規模な土石流により甚大な被害が発生するなど、毎年の様に全国各地で大規模な水害に見舞われています。

このような状況を踏まえ、(一社)中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所ではコロナ禍で十分な防災啓発が困難な中、「伝える」から「伝わる」ことを意識し、トレンドを活用することで、防災意識の高低・年齢にかかわらず防災に関心を持ち、災害から大切な命を守るため、一人でも多くの方が円滑に逃げられるよう、「事前の備えや早期避難を後押し」する取り組みを進めて参りました。

これらの取り組み(別紙 10大ニュース参照)の多くは、自宅で防災意識の向上を図ることが出来るものです。

2022年の取り組みに繋げるため、2021年を振り返り、今回10大ニュースとして取りまとめました。

地域づくり技術研究所では、2022年も引き続き、災害から大切な命を守るため、社会の変化やニーズを捉えた防災啓発活動に、積極的に取り組んで参ります。

(一社) 中部地域づくり協会 地域づくり技術研究所 防災啓発の10大ニュース

* 番号は順位を表すものではありません

① 新しい生活様式を踏まえた防災啓発の取り組みを推進（通年）

昨年に引き続き、コロナ感染症拡大に伴い、防災啓発イベントや講演会、出前講座などが中止または延期される中、感染症対策に配慮しながら、対面無くても「伝わる」様々な防災啓発の取り組みを行った。

2022年も引き続き、社会の変化やニーズを捉えた新たな取り組みも念頭に、「伝わる」防災啓発により、事前の備えや住民避難を後押しする取り組みを推進していく。

② 小・中・高校で防災講座を開催（通年）

今まで実施してきた高校に加え小・中学も対象に、災害への備えや早期避難などを学ぶとともに「避難インフルエンサー」育成に向けた防災出前講座を7校16講座開催した。

2022年も引き続き、防災講座などにより若年層への防災意識向上と「避難インフルエンサー」育成に向けた取り組みを推進していく。

③ 災と Seeing（さいとシーイング）の取り組み開始（4月～ 毎月1回）

大規模災害に備え、地域の防災力向上を図るため、名古屋大学減災連携研究センター、CBCテレビ、中日新聞と連携して防災啓発活動「災と Seeing（さいとシーイング）」の取り組みを4月から開始した。毎月1回、当協会HPで「過去の災害から学び備える」情報を紹介している。



④ 「あつ森」動画を公開（6月）

人気ゲーム「あつまれどうぶつの森（あつ森）」を活用し、5月20日に改定された「新たな避難情報」（警戒レベル4の避難指示で必ず避難。避難勧告は廃止）を学習する動画を制作・公開した。



⑤ 防災啓発冊子「自然に学び自然に備える」を電子冊子として発刊（6月）

三六災害から60年、東日本大震災から10年を特集した防災啓発冊子を発刊。昨年に引き続き、自宅で防災を学べるよう電子冊子としてHPで公開した。

2022年も2021年の災害を掲載した当年度版を電子冊子として発刊する予定。



⑥ 全建賞（全日本建設技術協会）2年連続受賞（6月）

「コロナ禍における防災啓発の試み～新しい生活様式を踏まえて～」が、避難インフルエンサーの育成を目的にVR等を活用した防災講座の実施やYouTubeを活用した非接触での新規性の高い取組である点や、コロナ禍での防災啓発手法が全国に展開されることで、防災意識の向上が期待される点が評価され、全建賞（河川部門）を2年連続で受賞した。



⑦ 大雨にソナエルピクトを公開（9月）

早期の避難行動を促す取り組みとして、東京オリンピックで関心が高まった「ピクトグラム」に着目し、水害への事前の備えに関するピクトグラム「大雨にソナエルピクト」を制作し、当協会ホームページで公開した。「大雨にソナエルピクト」は、避難行動のチェックリストとして活用して頂くとともに、図柄は防災訓練や防災講座などでも自由に活用頂ける。この取り組みは、多くの報道機関に取り上げられた。



2022年は、出水期前のタイミングを捉えて積極的な啓発を図るとともに、ピクトグラムを活用した地震編やダイバーシティを意識した多言語化などの制作にも取り組んでいく予定。

⑧ マニフェスト大賞エリア選抜（東海エリア）に2年連続認定（9月）

全国の応募総数 2730 件から 165 件（東海エリア 15 件）が選定され、地域づくり技術研究所が取り組んだ「コロナ禍における防災啓発の試み～新しい生活様式を踏まえて～」が、昨年に引き続き、第 16 回 マニフェスト大賞エリア選抜＜東海エリア＞に認定される。



⑨ デジタル展示館を開館（10月）

DX（デジタルトランスフォーメーション）推進の取り組みとして、バーチャル空間でパネル展示などを行う「デジタル展示館」を当協会ホームページとスマホアプリで 10 月 12 日に開館した。デジタル展示館では、昭和の街並みの中で、濃尾地震・昭和東南海地震や中部地方で発生した昭和 30 年代頃の水害の写真を観ることが出来る。当時の白黒写真をカラー加工し、近年の災害と比較することで、今この地域で起こりうる災害であると感じられる。



また、ビデオルームでは、液状化実験の様子や浸水疑似体験映像、あつ森（あつまれどうぶつの森）を活用した啓発動画などを公開している。

⑩ 瑞穂警察署から感謝状を拝受（11月）

令和 3 年 11 月 22 日（月）に愛知県瑞穂警察署長と瑞穂区防犯協議会長から、感謝状を拝受した。地域づくり研究所が取り組んだ「ピクトグラム」を活用した防災啓発活動の「大雨にソナエルピクト」は多数の報道機関に取り上げられ、報道をご覧になった瑞穂警察署から「特殊詐欺被害防止ピクトグラム」の制作に対する協力依頼があり、これを受けた地域づくり技術研究所の協力に対して感謝状が贈られた。



なお、瑞穂警察署とは防災啓発を連携して実施している。